

2、3年生「生と性の思春期教室」を終えて

特別号

7月3日(木)～14日(月)まで、助産師の和泉先生をお迎えして、2・3年生の授業を行いました。事前の質問からも、皆さんが真剣に考えていることが伝わり、とても嬉しい気持ちになりました。

この保健だより特別号では、授業での様子や感想と、裏面には先生方からのメッセージを載せてあります。ぜひ読んでから、家の人にも渡してください。授業でもお伝えしましたが、心や体のことで何か気になることがあれば、保健室に相談に来てください。



授業の様子と、皆さんからの感想を紹介します！

受精卵の大きさって？



- ・妊婦体験をして、実際の赤ちゃんの重さや生活の不便さ、もしも転んだなどの恐さを感じました。こんな状態でも頑張って自分のことを産んだくれた母やきっとそれを支えてくれた父にも感謝の気持ちが芽生えました。私は男で子供を産めませんがそれを支える側になりたいです。
- ・赤ちゃんの大きさが、小さいのにちゃんと重みがあって命を感じた。
- ・生理についても悩んでいたからこの講演会を聞いて心が軽くなった。
- ・自分の生き方、相手の見方、考え方について見直すことができた。

- ・質問の回答で、同じ考えの人も他にいるし、いろんなことで自分だけではないことを知りました。
- ・お話を聞いて、自分が思っていた悩み(LGBTQ)は全然恥ずかしいことでもないし、そう思ったり(恋愛等)するのは全く変じゃないと思えました。周りとは違うから変、ではない。そのこと込みで個性だと思いました。
- ・人にはそれぞれ感じることや思いがたくさんあって、一人ひとりの気持ちをばかにすることは絶対にしないようにしようと思った。出産まではとても大変なんだと感じた。
- ・男子だからと思わず、女子の身にもなってこれからを考えて行こうと思った。



- ・和泉さんからお話を聞いて、私は不安になったりして、体調を崩したりすることがあって、学校を休むことがあったりしていて、このままでは自分は良くないと思っていたけれど、まずは、身近な人に相談しようと思いました。今回のお話で、今まで思っていた不安が少し解消されました。思春期の時期、不安になってしまうのは、自分だけではないとわかりました。
- ・自分の命を大切に生きていこうと思いました。



先生方からのメッセージ

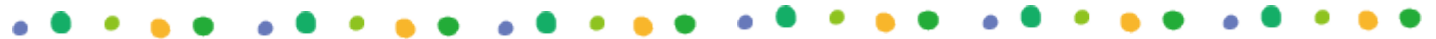


お子さんを育てるためにお休みされている河井先生、音楽科の平野先生から「命」をテーマに皆さんに向けてメッセージをいただきました。お父さん、お母さん、病院の医師や助産師、家族や友人、地域の人などなど、いろいろな人の手助けがあって一つの命が生まれ、育まれていきます。皆さんは、どんな赤ちゃんだったのでしょうか。

中学生の頃、漠然と「いつか子どもを産みたい」と思っていました。でも実際に妊娠・出産を経験し、無事に生まれることが当たり前ではないと実感しました。出産時、呼吸がうまくできず「赤ちゃんに酸素が行ってないよ！」と助産師さんに言われたときは本当に不安でした。産声を聞いた瞬間の安心感は今でも忘れられません。今、私に駆け寄ってくる我が子を見ると、親になれて本当に幸せだと感じます。



河井 優希



5年前、燕中学校に赴任してすぐ、お腹にきてくれた赤ちゃんの命がとても危険な状態になり、急遽入院することになりました。入院して2週間くらいは、「このまま赤ちゃんが死んでしまうのではないか」と思い、毎日泣いて過ごしていました。それでも絶対安静状態、毎日点滴をして、なんとか安心だという状態になり退院して学校にも復帰しました。その後、生徒の皆さんから「赤ちゃん無事でよかったですね!」「生まれてくるの楽しみですね!」などと温かい言葉をたくさんもらって、無事に出産を迎えました。いろいろな人からパワーをもらって生まれてきた我が子は、とても幸せ者だと思いましたし、きっとこれを読んでいるみなさんも一生懸命に生まれてきて、ここまでいろいろな人たちのサポートがあって育ってきたのだと思います。人は皆誰かの大切な人。自分に子供が生まれて改めて感じました。皆さんには、そんな自分を、周りの人を大切にして生きていける人になってほしいと思います。

平野 今日子

中学校時代は、心と身体が大きく成長する時期です。進路でストレスを感じていたり、友達関係、勉強のこと、部活のこと、恋愛のこと、いろいろな不安や悩みがある人もいると思います。そんな時は、助産師の和泉先生の言葉を思い出してください。「自分を大切に。周りの人も、大切に。あなたは、世界でたったひとつのたからものです。生きていだけで100点満点」これからも、夢に向かってあなたらしく進んでいきましょう。

